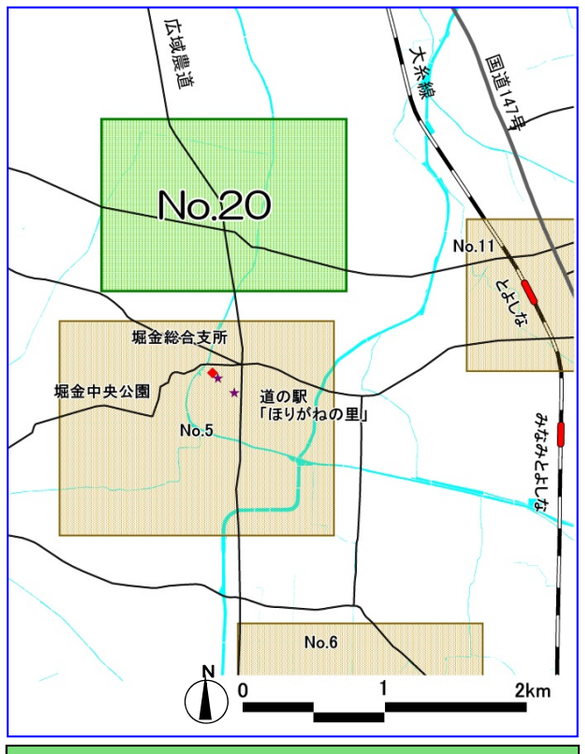
安曇野の原風景を巡る ふるさとウォッチングマップ

No.20

堀金下堀・扇町地区

－二つの地区の歴史を歩く－

集落の中心を拾ヶ堰が流れる下堀は、広く水田が広がります。中世からの幾筋もの千国道が交差する交通の要の地区でした。西側の扇町地区は下堀金の枝郷として開墾されました。旧街道沿いに屋敷林の連なる風情のあるみちとなっています。現在は広域農道沿いの大型ショッピングセンターや烏川工業団地で商工業の中心地のひとつになっています。



編集・発行

安曇野ふるさとづくり応援団

URL　http://azumino-furusato.com

※本マップは公式サイトからダウンロード可能です

◆コースタイム　※時間は歩速3㎞/時としての目安です（休憩含まず）

スタート　扇町公園→約1.2㎞＊24分→諏訪神社→約1.2㎞＊24分→十郎右衛門屋敷→約0.6㎞＊12分→中村の道祖神→約0.8㎞＊16分→天明霊神社→約0.8㎞＊16分→ゴール　扇町公園　【合計】約4.6㎞：1時間32分

※私有地への立入はご遠慮下さい。

(e)下堀の生け垣と屋敷林の通り
生垣・屋敷林の緑に雪の常念

(d)多賀神社と夫婦松(諏訪神社内)
ねじれている2本の松がご神木

(a)扇町公園
眺望の開けた地域住民の憩いの場

(b)中木戸の道祖神
扇の中に像を彫り込みとてもお洒落

(c) 唐澤家の水車小屋
何とも風情のある形

平成26年度　長野県地域発元気づくり支援金活用事業

① 新堀堰

もとは黒沢川増水の満水除けなどとして始まり、三郷楡の住吉神社近くで温堰を取り入れて標高約600メートルの等高線に沿って流れており、扇町を抜けたあと拾ヶ堰に合流しています。江戸期の開削後、明治初年の改修を経て通水量が増え、拾ヶ堰開削前まで畑地だった扇町の開田がさらに進んだと言われています。

堰沿いの桜の並木

② 唐澤家の屋敷林

扇町の街道沿いに形成される旧来の集落西端にあり、ひときわ大きな屋敷林を見ることが出来ます。約1650坪の敷地には、ケヤキ・キハダ・シナノキなど数種類の広葉樹が植林されており、趣のある母屋をはじめ、蚕室や土蔵などと一体となって安曇野らしい集落景観の一部を構成しています。

立派な屋敷林

③ 諏訪神社

下堀・扇町の産土神。創建年代不詳で、かつて扇町にはべつに産土神社として諏訪社が存在しました。境内には本殿ほか多くの摂社が存在するほか、拝殿内に市の有形文化財に指定されている御神鏡などが整っており、屋台の保存なども含め、氏子さんたちが大切に守り続けてきた思いが伝わってきます。

【神鏡：市有形文化財】

散策が楽しめる広大な境内

④ 北村の道祖神と津島様

拾ヶ堰にかかる橋のたもと、石碑が並んで立っています。そのうち左端の石造物の上部に小さな木の祠があるのは津島様(津島神社)。かつては「秋葉様」であったものが、昭和初期には現在の津島様に転じたとされています。津島信仰の祭神は牛頭天王であり、穢れを祓う神様とされています。

左から津島様･天満宮･庚申塔･道祖神

⑤ 河岸段丘

今回コースの折り返しになる東側エリアは河岸段丘となっており、段丘に沿って勘左衛門堰が南から北に向かって流れています。段丘上の道路からは西に下堀集落越しに常念岳を望めるほか、東を向いては豊科の市街地方面が一望でき、新田神社の鎮守の森や新市庁舎などを見ることが出来ます。

段丘沿いの小路

⑥ 十郎右衛門屋敷

巾上の河岸段丘上に大きな本棟造の屋敷と立派な屋敷林で構成された一角があります。下堀金の村落景観の形成に深く関与したと考えられている堀金氏に繋がる有力家臣の屋敷(館)であったとされています。屋敷の南側を抜ける里道は明治23年(1890)の地図に「烏川北山道」烏川入会山へ向かう道です。

時が止まったような雰囲気の烏川北山道

⑦ 天明霊神社

天明行者は弘化3年(1846)扇町に生まれました。明治6年(1873)に古来より信仰の対象であった霊峰有明山に最も険しい黒川登山口より初登頂し、三神を奉納、開山しました。のちに有明講を結成した天明行者をまつるため、その生家近く霊社が建てられました。社殿の奥側に石造の行者立像があります。

社殿と天明行者真姿

諏訪神社の2つの鳥居

諏訪神社には、2方向からの鳥居と参道があります。一つは下堀からまたもう一つは扇町からです。ちょうど中間にある神社をお互いに大切にしてきた証であり、この地区の特徴のひとつです。

また、この地区には石造文化財が数多くあります。とくに、馬頭観音が多く、家族同様の馬に対する感謝と供養の気持ちが感じられます。